

アンデスの風

ボゴタ日本人学校だよりNo. 340
(平成28年度 第4号)

平成29(2017)年2月23日



ASOCIACION CULTURAL JAPONESA

Cra.8H No. 170-35 BOGOTA COLOMBIA

Tel+571-670-5130 Fax+571-672-7509

E-mail : bogota_a_c_j@yahoo.co.jp

URL : <http://www.bogotaacj.com>

校長 平野 惠彦 2017.2.23

2月16日 「ゆずり葉」ってなに？

廊下の掲示（樹下学級）を見て、6年生の教室に行きました。

「あの「ゆずり葉」って何かわかる…？」と尋ねると、「何か儀式に使うような物ですか…？」、「ゆずる葉…ですか？」と答えました。なかなか鋭いところを感じているのだなあと思いました。授業で書写を行っていますが、ただ漠然と書いているのではないのだと思います。

感じながら書いているのだなと感心しました。「筆をつかって書く」は筆順も学びますが、描き想像するということは大切なのだと改めて思いました。

(ユズリハ科ユズリハ属 常緑高木:若葉が伸びてから古い葉が落ちることから後を譲るに例えている。正月などにそえる)



「一年先を楽しみたいなら花を育てなさい、10年先を楽しみたいなら樹木

を育てなさい、その先を楽しみたいなら人を育てなさい。」は、中国の古典『管子』に「十年の計は、木を樹うる如くは莫し。終身の計は人を樹うるに如くは莫し。」という記述からきたものと聞きます。

「人を育む営み」は尊く、学校の存在はその地の民度の高さを表しているとも言います。私たちの学校を問い直してみると、子ども達の学びの姿勢は40年間変わらず創立当時の精神を引き継いでいるものと信じています。40周年記念行事を通して多くの人のお話をお伺いした1年でした。皆様のお話をお伺いする度に子ども達や教職員がともにこの地のボゴタで続けてきたことに対して敬意を表さずにはられません。ボゴタ大運動会には子ども達の応援にたくさんの方が来場されまし

た。きさらぎ祭では、ずっと昔からカリ野菜を送り続けてくださるカリ日本人協会の新地さんや嶋田さんがいらっしゃいます。歴代の校長先生からもお手紙を頂戴することができました。ある校長先生は「〇〇さんは元気に豆腐をつくっていますか。」（今でも現役ですとお応えしました。）と尋ねて



おられました。40周年記念祝賀会ではたくさんの卒業生が駆けつけてくれました。多くの方のご苦勞とエネルギーに感謝・感謝です。

昼休みが終わるとお掃除です。子ども達は各

学級の40周年記念樹の水やりに校庭の端に水を運びます。

この樹が成長し実をつけるころ、10年後はどんな学校であろうか。かつての学舎で「水やりの子ども達の姿」を想像できる子ども達や教職員だろうか。私たちはそれを伝えつなげる役割も大事にしながら学校運営をしていきたいと思ひます。「あの水やりの子、今は何処で何をしているのだろうか。」と10年後…、抜けるけようなアンデスの青い空とともに思い出していることでしょう。

実は教師自身も子どもとの学びを通して成長するものです。

堀江慎平教諭が年度末に日本に帰任いたします。約半年間、教頭職務代理を務めました。いくつもの40周年記念事業等を見事にやり遂げてくれました。全く経験の無い教頭職でしたがその職責を果たしました。保護者の皆様、大使館、木曜会、文化協会からそそいで頂いた愛情があつてこそだと思います。ボゴタでの経験は教育界の貴重な財産となることでしょう。ボゴタ日本人学校は子どもを育み教師を成長させるすばらしい学舎であることを再認識しています。



私たち教員も「アンデスの青い空」に育まれていたのだと気づかずにはられません。卒業式や離任の儀式では「ゆずり葉」を添えることはありません。ですが子どもたちも教師一人一人も「譲る（ゆずる）葉」の気持ちで卒業式・離任式をむかえ、学校は歴史を重ね大きく成長するのだなと感じ入っています。

（ゆずり葉や 召し出されて 桜かな）